

本住寺便り

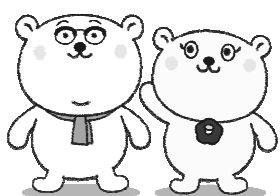
〜平成二十八年立春大吉号〜

食は命をつぎ、衣は身をかくす。

食と惜しまずに施すものは長寿の報をまねき、

人の食と奪ふものは短命の報とうく。

(高祖日蓮聖人・法衣書)



便利で豊かすぎる日本の現代の暮らしは、物の有り難さが分からないようで、衣食にしてもそうでしょう。今はいつでもでも食べるのに苦労はありませんし、石油から様々な衣料品さえ造り出すことも可能なため、他の人々に衣食を施す(布施)ということが忘れ去られています。

また、企業は新製品や流行という名の下に生産し、私たちも消費者という立場で、「金さえ出せば」「どうせ使い捨てだ」といい、物に対して尊い人々の汗の結晶と見ることなく、物が豊かで有り難いという感謝の気持ち薄れているようです。

『法華経』提婆品には、「果を採り水を汲み、薪を拾い食を設け、乃至身を以て、牀座となせしに、身心は倦(ものう)きこと無かりき」と説かれています。

これは自分は果水薪などを集めて食事の支度をし、腰掛のような役目でお仕えしたが、少しもあきることにはなかつたという意味で「給仕する」ということです。真の教えを求めて、自分を減して師匠に尽くし、お仕えする心が給仕です。

今でも全ての分野で給仕する心・求道の心は大切です。それは自分を高めるだけでなく、広く社会全体に尽くすことになるからです。生きとし生ける物に奉仕する心を持ちながら、自分の命を生き長らえるために「食を頂く、衣を着させて頂く」という感謝の気持ちが大切なのです。

慈(いつくしみ)の心、悲(あわれみ)の心、喜(よろこび)の心、執着をすてた捨(やすらぎ)の心、仏さまの四無量心をもつて、社会に貢献しましょう。冒頭のお言葉も、長寿や短命の報いは、そうした心掛けから生まれるとのお示しです。

最後に、今年は近い方が何回忌に当たるのか「年忌早見表」を載せました。法事やお彼岸の供養を通して、多くの功德を積まれますように。

平成二十八年 年回忌表

一周忌	平成二七年
三回忌	平成二六年
七回忌	平成二二年
一三回忌	平成一六年
一七回忌	平成一二年
二三回忌	平成 六年
二七回忌	平成 二年
三三回忌	昭和五九年
三七回忌	昭和五五年
四三回忌	昭和四九年
四七回忌	昭和四五年
五〇回忌	昭和四二年

妙見山 本住寺

倉敷市真備町服部 一五八七

〇八六(六九八)九七七〇

ホームページ <http://www.honjuji.com/>

*仏事に関すること等でお悩みやお困り(ご)等がございましたら、どうぞお気軽に(ご)相談ください。

*法事のご予約はお早目にお願いたします。

お寺の都合によりご希望される日時でもお受けできない場合がございますので、(ご)了承ください。

妙見山本住寺 平成二十八年 年間行事予定表



一月	五日 ～七日	新年初祈禱	随時祈禱を受け付けました (住職祈禱済みの開運善哉のお接待)
二月	三日	節分豆まき	最上稲荷の福豆は： ご先祖さまの供養をいたします (卒塔婆供養は別途受付)
三月	二十日	春のお彼岸(午後2時～)	本年は第六五三回忌です
四月	三日	開山大覚大僧正御命日	遠田講中の皆さまと妙見堂でお経
五月	八日 二十日	境内清掃(5班 遠田) 春の妙見さま(旧三月十四日)	よろしくお願いいたします
六月	十四日 十八日	花まつり(午前10時～) ※総代世話人会(昼食付) 観音経写経 納経会	お花と甘茶を誕生仏に捧げます (甘茶とかき餅のお接待) 法要の後、昼食をとりながら、 『総代世話人会』を執り行います 書きためたお写経をお清めして 御宝前へ納めます
七月	十日	境内清掃(1班 関屋)	よろしくお願いいたします
八月	十日 ～十五日	お盆のお経回り	皆さまのお家へお経に参ります
九月	十一日 十四日 二十二日	境内清掃(2班 谷本・金谷) 秋の妙見さま(旧八月十四日) 秋のお彼岸(午後2時～)	よろしくお願いいたします 遠田講中の皆さまと妙見堂でお経 ご先祖さまの供養をいたします (卒塔婆供養は別途受付)
十一月	十一日	御会式(旧暦十月十二日夕) ※総代世話人(回向袋)	日蓮聖人のご命日にあたり、本堂にて法要を行います(芋煮接待)
十二月	十三日 十一日 十七日	境内清掃(3班 吉則・玉島) お焚き上げ 観音経写経 納経会	よろしくお願いいたします 古いお塔婆などを抜魂し、お焚き上げいたします 書きためたお写経をお清めして 御宝前へ納めます

◆◆◆ 本住寺 信行会 ◆◆◆

本住寺では、月に一度、お題目を中心にお経や作法を楽しく実践する『信行唱題会』と、本堂で心静かに観音経のお写経をする『観音経写経会』を開催しております。初心者歓迎！どなた様でも簡単にご参加いただけますので、興味がある方は是非お気軽にお越しください。

信行唱題会 毎月第2火曜日 午後2時より

観音経写経会 毎月第3土曜日 午前10時～午後7時